

# 第52回 全国知的障害福祉関係職員研究大会（青森大会）

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 KDX 浜松町ビル 6階

## 助成事業の概要

本事業は、本年度で52回の開催を迎えましたが、今年度も例年どおり、本事業の企画・運営は、各地区会・地方会において持ち回りにて実施し、今年度は東北地区・青森県協会を中心に企画・運営を行いました。

本大会の参加対象は、全国に所在する知的障害関係の施設・事業所の支援員を主な参加者としており、3日間にわたり研修会を実施しています。

本大会では、各プログラムを通じて日常における支援の見直しやスキルアップを図るとともに、新たな実践に取り組むきっかけや、種別を超えた仲間づくりなども目的としています。

今年度は青森県青森市のリンクステーション青森を主会場とし、大会テーマの「真の共生社会の実現と知的障害福祉の未来に向けて～変わりゆく制度と変わらぬ想い、私たちの専門的役割とは～」のもと、平成26年9月3日（水）～5日（金）の3日間にわたり全国より1,600名の参加を得ることが出来ました。

## 事業の成果

大会1日目の全体会では、開会式、永年（20年）勤続表彰（今年度の対象者は全国で527名、昨年度は516名）授章式に続き、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課地域生活支援推進室の曾根直樹虐待防止専門官、障害福祉専門官による行政説明が行われました。

続いて、岩手県知的障害者福祉協会前会長の久保田博氏より東北被災3県を代表した「震災復興報告」がなされました。震災直後から本会では、全国の都道府県協会との緊密な連携のもと、物心両面において支援を行ってきました。このたび震災より3年が経過し、現在の被災地における復興の状況とその後の取り組みについて話がなされました。

次に、1日目最後のプログラムとして、立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科の平野方紹教授より「福祉の現場力・支援力をどう高めるか―障害福祉の現場に今後期待される役割」と題し、基調講演が行われました。障害福祉施策の制度再編の歩みから、今後具体的な検討が行われる社会福祉法人改革にかかわる動きまで、丁寧に分かりやすくお話しいただきました。

また、大会1日目の終了後には、参加者同士の交流を目的とした「情報交換会」が行われました。例年、情報交換会は設定定員を上回る申込みがありますが、今年度も、871名もの申し込みがありました。会場内は参加者の熱気で溢れ、青森の郷土料理や銘酒なども振る舞われ大変な盛況でした。

大会2日目は、テーマごとに部会・分科会が設定されました。午前は事業種別ごとに6部会に分かれ、事前に公募により選ばれた実践発表などが行われました。

6部会の名称は次のとおり。

- ①児童発達支援部会
- ②障害者支援施設部会
- ③日中活動支援部会
- ④生産活動・就労支援部会
- ⑤地域支援部会
- ⑥相談支援部会

また、午後からは、7つの分科会を設け、テーマごとにその第一線で活躍されている講師による講演やシンポジウムが行われた。7分科会のテーマは次のとおりです。

- ①「自己表現は未来への創造～一人ひとりが発光体～」 ②「私のキャリアデザイン～仕事は“豊かな人生を作っていくステージ～”」 ③「異業種の視点から学ぶ～地域を変えるソーシャルアクション～」 ④「虐待防止への取り組み～より安心して福祉サービスを利用するために～」 ⑤「自分らしく老いるために～高齢障がい者支援に求められるもの～」 ⑥「その人に必要な“適切な支援”とは？～強度高度障害・自閉症スペクトラム支援のあり方を考えよう～」 ⑦「リスクマネジメントによる“しあわせ”サポート～利用者・職員の“しあわせ”の土台となるリスク管理とは～」

大会3日目の最終日には、青森大学経営学部准教授・新体操部部長の中田吉光氏より「青森から世界へ～男子新体操の普及と文化の構築～」と題した特別講演Ⅰが行われ、続いての特別講演Ⅱでは「あきらめない夢」とのテーマで地元青森県出身の元力士・現NHK大相撲解説者の舞の海秀平氏による講演が行われました。

その後は、閉会式において翌年の高知大会に向けたPRなどがなされ、全3日間の大会は無事に終了しました。

## 成果の広報・公表

本大会の報告は、本会の機関紙「愛護ニュース」（毎月1日発行）において、大会3日間を通じた終了報告を掲載し、関係機関および会員施設・事業所の約6,600ヶ所に配布しました。

また、本会の月刊誌『さぽーと』2014年11月号においても、大会特集ページを設け、3日間にわたるプログラムの詳細を掲載しました。

## 今後の展開

本大会は、平成27年度は第53回大会として高知県高知市での大会を予定しています。

現在、開催県の高知県内においては、実行委員会が組織され、既に数回の会議が開催されています。大会のメインテーマや3日間のプログラム構成、分科会におけるテーマ設定や講師の選定などが検討されています。

次回第53回大会では、「新たな夜明けを土佐の地から～未来に引き継がなければならない大切なものとは～」とのテーマを設定し、例年通り3日間の予定において開催する予定としています。

現場において日々利用者と向き合い、実践を重ねる施設・事業所の職員の皆さんが、本研修を通じて多くの仲間と交流を図り、課題や支援技術を共有するとともに、目的と希望を持って障害福祉の仕事に携われるよう、また、その大きなきっかけとなるような意義のある大会を目指し、来年度も企画・運営を行っていきたいと考えております。